

# 令和7年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 徳力 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月18日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### I. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

##### 教科に関する調査（国語、算数、理科）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等  
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

#### (2) 児童質問調査

##### 児童質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

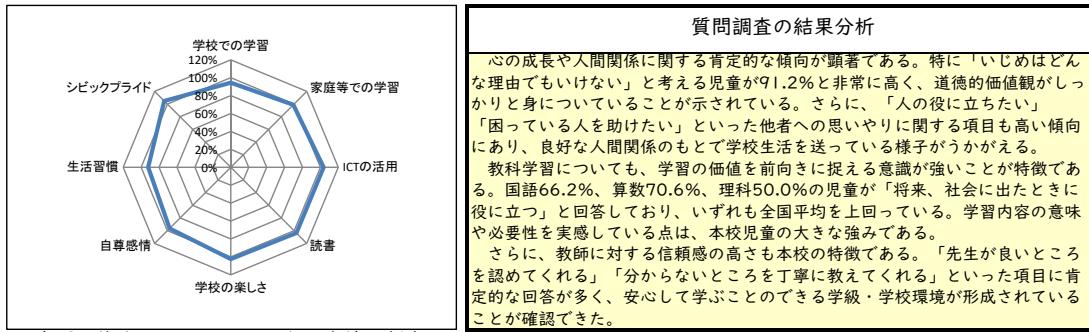
本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全般的な傾向や特徴など	国語科では、県・全国平均を下回る領域が多く、とくに「言語使用の理解」および「書くこと」で得点差が大きかった。また、記述式項目において正答率の低下が顕著であり、説明的表現を要する課題で得点が伸びにくい傾向が見られた。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	話し手の考え方と比較しながら、自分の考え方をまとめることができるかどうかをみる	下回っている
	努力が必要な問題	目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる	
算数	全般的な傾向や特徴など	算数科では、「図形」および「データの活用」で県・全国との差が大きく、基礎領域である「数と計算」でも一定の得点差が認められた。記述式項目の正答率は低く、数学的根拠や考え方の表現を伴う課題で得点が伸びにくい傾向が確認された。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができるかどうかをみる	下回っている
	努力が必要な問題	分数の加法について、共通する単位分数を見いだし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つかを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	
理科	全般的な傾向や特徴など	理科では、「生命」および「地球」の領域で大きな得点差が見られた一方、「エネルギー」「粒子」は県・全国と概ね同水準であった。また、記述式項目では正答率が低く、観察・実験を踏まえた説明を要する課題で得点が伸びにくい傾向が示された。	全国平均正答率との比較
			下回っている

よくできた問題	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することができるかどうかを見る
努力が必要な問題	身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があるごとの知識が身に付いているかどうかを見る

#### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を100としたときの本校の割合

#### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

##### ① 教科に関する取組

- ・学習内容の要点整理を行い、考えをまとめる力を育てる。
- ・短い記述で考え方の筋道を説明する活動を取り入れ、理由を付けた発言を促す。

##### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・音読・計算・1行ふり返りなど、短時間で取り組める家庭学習内容を明確に示す。
- ・学級通信や校内掲示を通して、早寝早起きの大切さを定期的に発信する。
- ・生活リズムに関する情報や工夫を、保護者へ継続的に紹介する。